上野忠は「夫婦愛」「決して離れない」という花言葉を持つヨモギを使った和洋菓子で、大切な人に感謝の気持ちを伝える「いい夫婦の日」のイベントを提案し、今年は全国で296の和洋菓子店が参加した。2011年からの取り組みで、10年目となった。

同社では昨年同様、デザイナーが描いた懐かしく温かみのあるイラストとともに「家族のはじまりにありがとう。」のメッセージが描かれた告知ポスターとのし紙、2つのハートマークに絆のロゴが入ったオリジナルシールやケーキのピックを製作し、商品とともに提案を呼び掛けた。イベント参加の3店舗を巡り、様子をうかがった。

松月 よもぎロール

松月 藤原専務

・浪速育　松月本店（大阪市北区、藤原勝廣社長）

和生菓子技能士会の会長を務める同店の藤原厚子専務は、数々の和洋菓子職人であり、大阪府子職人である。

女性の和菓子を主に置く同店は、和菓子を主とした本店と、洋菓子を主とした福島店の2店舗のほか、大阪国際空港の売店にも納入している。

約70年となる柄生地のどら焼きで、栗入り粒あん、カスタードクリームほか、5種類がある。昨年に開催されたG20大阪サミットのコーヒーブレイクで提供されたお菓子でもある。

今回、「いい夫婦の日」に向けたお菓子として、11月4日よりよもぎ大福、浮島と、よもぎロール（福島店のみ）を販売していた。新型コロナで受けた影響について、藤原専務は「緊急事態宣言の自粛期間中も、時間を

吉乃屋 中西店主

・御菓子司　吉乃屋（大阪府松原市、中西信治店主）

開業から20周年の同店は、「いい夫婦の日」に初めて参画、店舗で買い物をした人に、よもぎ餅を2つプレゼント（百人分、200個を用意）した。

中西店主は「まずは、プレゼントの企画から考えてみた。今年は開業20周年で、まも

自粛期間中も、変わらず営業を続けてきた。今年、「いい夫婦の日」に

十五番だんご 豊川店長

・十五番だんご（大阪市中央区、池永一雄代表）

今年の3月15日に空堀商店街にオープンしただんご店。人気商品は、餡子をたっぷりだんご生地に包んだ「十五番焼き」

3日は休業する事態となった。営業日には行列となったが、密を避けて入場制限を行った。以降も幅広い年齢層にご愛顧いただき、7割ぐらいがリピートのお客様で占めている」と語っていた。店舗には、めずらしい南部鉄器も並んでおり、高額な急須なども買っていく人がい

「レッドゴールド」がPR
高品質イタリア産トマト

ANICAV（イタリア野菜保存食品産業協会）では、欧州委員会（EC）の協力の下、「RED GOLD FROM EUROPE（レッドゴールドフロムヨーロッパ）」と題したキャンペーンを昨年から3年間の計画で実施している。100％欧州連合（EU）産のトマト缶をはじめとするトマト保存食品の日本国内での認知度アップを図り、多彩な企画に取り組んでいる。

同キャンペーンは中国、米国、韓国でも同時開催している。11月17日（火）、大阪市北区のザ・リッツ・カールトン大阪にて食品業界関連やプレス約40人を招き、プレゼンテーション昼食会を開催した。はじめに、主催者を代表し、マヌエル・バルザン氏がイタリアよりオンラインで挨拶しイタリア産トマトの魅力を解説した。

イタリア産トマト缶

無病息災を願う色である赤と、金メダル級の品質という意味で名付けられた「レッドゴールド」は、EU（欧州連合）がEU産のトマト缶を推奨するプロジェクトの名称で、ANICAVに所属する生産者で構成される。イタリアの全加工トマトの60％以上、世界で消費されるサンマルツァーノ産など国際的に有名なものも含む、皮むきホールトマト缶のほとんどを生産している組織。地中海地域は、トマトの栽培に最適な地域であり、収穫されたトマトは24時間以内に工場へ運ばれ、人手で洗浄した後に加熱されている。

トマトの歴史は古く、発祥は南米ペルーで、ヨーロッパに入ったのは16世紀半ば。糖分や脂質が少なく、ミネラル、ビタミン、タンパク質など栄養価の高い健康野菜で、保存食品でも鮮度が保たれ、リコピン酸のような強力な抗酸化効果のある栄養素が吸収されやすく、通年入手可能な健康食品である。様々な料理にマッチし、シンプルなソースからデザートに至るまで利用できる。

パンナコッタ

参加者らはEU産トマト缶を使用したフルコースランチを堪能した。デザートのパンナコッタはトマトジャムとのマリアージュが楽しめた。

来年8月29日～9月5日、「魅惑の国で料理の芸術三昧」と題したプレスツアーを予定している。ナポリに滞在しカンパーニュ州、プーリア州ほかトマト農場及び加工工場の視察を企画、プレス、ブロガー10人を招待する。トマトは様々な料理に豊富なバリエーションを持つが、菓子でもゼリーや外郎、スナック等で見受けられる。生、半生を問わず焼菓子など新たな参入が期待される。

長崎県菓子販売　負債額2億8400万

菓子卸売の長崎県菓子販売㈱（森直社長、長崎市西彼杵郡、1967年設立、資本金2500万円）は12月1日破産申請準備に入った。負債総額は約2億8400万円。

菓子卸売業者でパチンコ景品業者やパチンコ店運営業者を主力に、1999年1月期には売上高約28億4200万円を計上していたが、県外大手同業者との競合やパチンコ業界の低迷、取引先の廃業などで20年1月期は約2億2000万円にまで減少、収益面は低調推移で厳しい運営が続いていた。加えて新型コロナの影響で主要取り引き先が自治体からの休業要請に応じ一時休業したことや利用者の減少が続き、今回の措置となった。